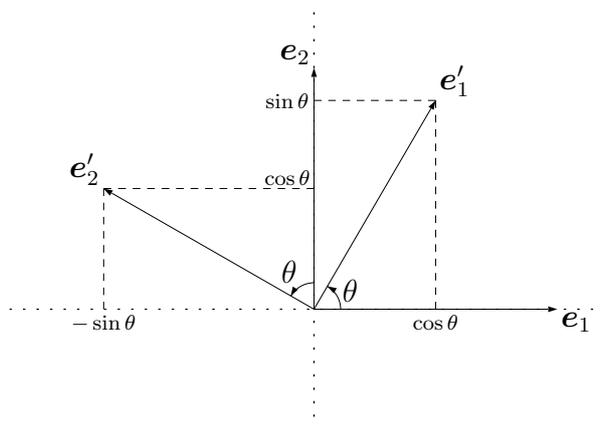
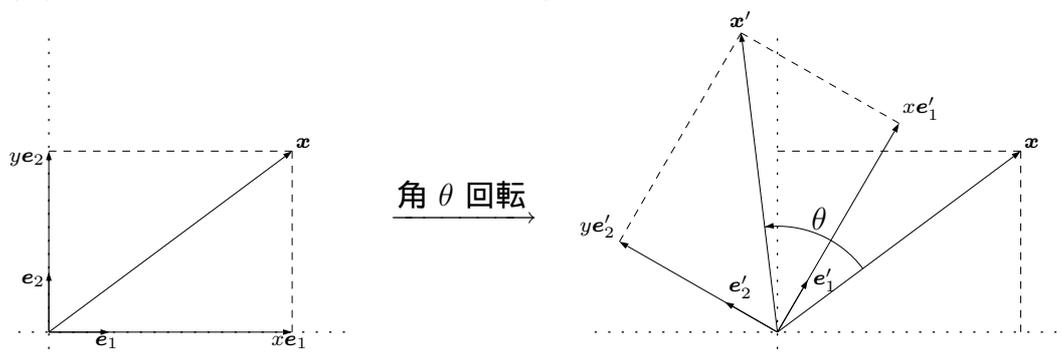


## 2 ベクトルの回転と複素数の積 の解答例

演習 2.1 (1)  $e'_1 = \begin{pmatrix} \cos \theta \\ \sin \theta \end{pmatrix}$ ,  $e'_2 = \begin{pmatrix} \cos(\theta + \pi/2) \\ \sin(\theta + \pi/2) \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -\sin \theta \\ \cos \theta \end{pmatrix}$ . (下図参照)



(2) (上の図より縮尺を小さくしています)



$x = xe_1 + ye_2$  だから, 左の図のように,  $x$  は  $xe_1$  と  $ye_2$  によって作られる長方形の対角線にあたるベクトルである. この長方形全体を角  $\theta$  回転したものは,  $xe'_1$  と  $ye'_2$  によって作られる長方形で,  $x'$  はその対角線にあたるベクトルであることが分かる. よって,  $x' = xe'_1 + ye'_2$ .

(3) 上記の (1), (2) により,

$$x' = xe'_1 + ye'_2 = \begin{pmatrix} x \cos \theta - y \sin \theta \\ x \sin \theta + y \cos \theta \end{pmatrix}.$$

よって, 表現行列は  $\begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix}$  である.

(4)  $e_1$  を角  $\theta_1$  回転した後に角  $\theta_2$  回転すると,

$$e_1 \mapsto e'_1 = \begin{pmatrix} \cos \theta_1 \\ \sin \theta_1 \end{pmatrix} \mapsto \begin{pmatrix} \cos \theta_1 \cos \theta_2 - \sin \theta_1 \sin \theta_2 \\ \cos \theta_1 \sin \theta_2 + \sin \theta_1 \cos \theta_2 \end{pmatrix}.$$

一方,  $e_1$  を角  $\theta_1 + \theta_2$  回転したものは,

$$\begin{pmatrix} \cos(\theta_1 + \theta_2) \\ \sin(\theta_1 + \theta_2) \end{pmatrix}$$

であり, 両者が一致するので

$$\begin{cases} \cos(\theta_1 + \theta_2) = \cos \theta_1 \cos \theta_2 - \sin \theta_1 \sin \theta_2 \\ \sin(\theta_1 + \theta_2) = \cos \theta_1 \sin \theta_2 + \sin \theta_1 \cos \theta_2 \end{cases}$$

を得る.

## 演習 2.2

$$\begin{aligned} (1) \quad z_1 z_2 &= |z_1| |z_2| (\cos \theta_1 + \sqrt{-1} \sin \theta_1) (\cos \theta_2 + \sqrt{-1} \sin \theta_2) \\ &= |z_1| |z_2| \{ (\cos \theta_1 \cos \theta_2 - \sin \theta_1 \sin \theta_2) + \sqrt{-1} (\cos \theta_1 \sin \theta_2 + \sin \theta_1 \cos \theta_2) \} \\ &= |z_1| |z_2| \{ \cos(\theta_1 + \theta_2) + \sqrt{-1} \sin(\theta_1 + \theta_2) \}. \end{aligned}$$

(2) まず, 3 つのベクトルを極形式で表すと

$$\begin{aligned} \frac{1 + \sqrt{-1}}{\sqrt{2}} &= \cos \frac{\pi}{4} + \sqrt{-1} \sin \frac{\pi}{4}, \\ \frac{-1 + \sqrt{-3}}{2} &= \cos \frac{2\pi}{3} + \sqrt{-1} \sin \frac{2\pi}{3}, \\ \sqrt{3} - \sqrt{-1} &= 2 \left( \cos \frac{11\pi}{6} + \sqrt{-1} \sin \frac{11\pi}{6} \right) \end{aligned}$$

である. 一般に,  $z = |z|(\cos \theta + \sqrt{-1} \sin \theta)$  のとき,  $z^n = |z|^n(\cos(n\theta) + \sqrt{-1} \sin(n\theta))$  となることに注意すれば,

$$\begin{aligned} \left( \frac{1 + \sqrt{-1}}{\sqrt{2}} \right)^{100} &= \cos(25\pi) + \sqrt{-1} \sin(25\pi) = -1, \\ \left( \frac{-1 + \sqrt{-3}}{2} \right)^{100} &= \cos \frac{200\pi}{3} + \sqrt{-1} \sin \frac{200\pi}{3} = \frac{-1 + \sqrt{-3}}{2}, \\ (\sqrt{3} - \sqrt{-1})^4 &= 2^4 \left( \cos \frac{22\pi}{3} + \sqrt{-1} \sin \frac{22\pi}{3} \right) = 16 \left( \frac{-1 - \sqrt{-3}}{2} \right) = -8 - 8\sqrt{-3}. \end{aligned}$$

(3)  $z^3 = -1$  のとき,  $|z|^3 = |z^3| = 1$  だから,  $|z| = 1$  でなければならない. そこで,  $z = \cos \theta + \sqrt{-1} \sin \theta$  とおくと,

$$z^3 = -1 \Leftrightarrow \begin{cases} \cos(3\theta) = -1 \\ \sin(3\theta) = 0 \end{cases} \Leftrightarrow 3\theta = \pi + 2n\pi \quad (\exists n : \text{整数}) \Leftrightarrow \theta = \frac{\pi}{3} + \frac{2n\pi}{3} \quad (\exists n : \text{整数}).$$

ここで,  $n$  が何であろうと  $z$  の値は  $\theta = \pi, \pm \frac{\pi}{3}$  のいずれかの場合と一致するから, 3乗して  $-1$  となる複素数は  $z = -1, \frac{1 \pm \sqrt{-3}}{3}$  の 3 つがすべてである.

(3) は因数分解  $z^3 + 1 = (z + 1)(z^2 - z + 1)$  を用いる方が普通だと思うのですが, 今回は回転がテーマなので上記のような解答例を書いておくことにしました.

演習 2.3 (1)  $c = a + b\sqrt{-1}$  とすると,  $cz = (ax - by) + (bx + ay)\sqrt{-1}$  だから,

$$\mathbf{x}' = \begin{pmatrix} ax - by \\ bx + ay \end{pmatrix}.$$

よって, この変換は  $\begin{pmatrix} a & -b \\ b & a \end{pmatrix}$  を表現行列とする 1 次変換である.

(2)  $c = \cos \theta + \sqrt{-1} \sin \theta$  のとき, (1) で求めた表現行列は

$$\begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix}$$

となり, 演習 2.1 (3) で求めた表現行列と一致する.